



前進座五月国立劇場公演

山田洋次 監修・脚本 / 小野文隆 演出

# 裏長屋

# 騒動記

〔うらながやそうどうき〕

落語「らくだ」「井戸の茶碗」より

江戸の長屋は今日も底抜け大騒動!

山田洋次監督と前進座による  
笑いとは人情あふれる新作歌舞伎!



イラスト/瀬知エリカ

2017年 5月11日(木)~22日(月)

東京・半蔵門 国立劇場大劇場

ご観劇料金：一等席 10,100円 / 二等席 4,200円 / 三等席 2,600円 / 特等席 12,000円

お問い合わせ：前進座東京営業所 ☎0422(49)2811

<http://www.zenshinza.com/>

3月10日(金) 一般前売開始

2017年	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
5月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
午前の部	11 30	11 30	11 30	11 30	貸切	11 30	11 30	11 30	貸切	11 30	11 30	11 30
午後の部		16 00	貸切	貸切						16 00	16 00	

# 想い出に加わる新たなページ 前進座と創る江戸の笑い

「僕は高校時代、山口県の田舎にいました。戦後のあの時代は山口県にも前進座の巡回公演があつて、シエークスピアの『ベニスの商人』をやるんだ、うわー、観たいなー」と思ったけど、観られなかった。前進座は当時すごい人気があつて、切符が手に入らなかつたんです。その後、前進座が独立プロダクションとして映画『箱根風雲録』（監督＝山本薩夫）を製作した時、僕は大学の映画サークルにいて、この映画を支援するために各大学の映画サークルを動員して大勢でエキストラにかけつけたものです。

僕は、本当に笑える楽しい喜劇を前進座が創造してくれるといいなあと思います。今、日本人は笑いたいんだけど、気持ちよく笑わせることほど難しいことはない。それは、笑わせる方が、観客と同じような生きる辛さを共有していないといけないからです。そして、前進座にはその資格があると思うんです。」

（二〇一一年四月放送NHK教育テレビ

「芸能百花繚乱」前進座八十年の軌跡」インタビューより）



今回初めて、前進座と一緒に舞台を創ることになりました。落語の「らくだ」と「井戸の茶碗」をもとに、ある裏長屋で起こる騒動のお話です。五年前にお話しさせていただいたことが、このような形で実現でき、長年の前進座との想い出に新しいページが追加されることに、わくわくしています。どうぞ、ご見物の時には、舞台の俳優さんと同じ空間で、笑いや喜びを共有して、にぎやかに大声で笑いながらお楽しみください。（山田洋次）

## 裏長屋騒動記

武士のプライドと屑屋の良心——  
可笑しくてちよつぴり苦い  
山田洋次ワールド全開！

江戸の裏長屋に出入りする屑屋が、浪人者の父娘に懇願されて買いつけた古い仏像を、表通りの蔵屋敷から声をかけてきた侍に求められて売ったところ、仏像の腹の中から出てきた、誰の物ともわからない五十両という大金。長屋の浪人も蔵屋敷の侍も、この金は自分のものではないから受け取れないと強情に言いはるので、屑屋は裏長屋と蔵屋敷を行ったり来たり…。

「これ以上、こんな大金持つてうろろしていたら、どんな間違いをしてしまうか。あたしはお侍さん方のように立派ではありません。貧しいあたしが罪をおかすのは簡単なことなので…。」と涙ぐむ屑屋に、はつとして詫げる侍…。

武士のプライドやモラルのために、貧しい江戸の庶民の良識が崩れそうになりぶつかる瞬間、互いに大真面目だからこそその哀しくも可笑しい山田洋次ワールドがあふれます。

一方では、ある日「らくだの馬」という長屋中の鼻つまみ者がフグにあたつて死んでしまいます。馬を訪ねてきた兄弟分が、通りがかつた屑屋に声をかけ、馬の串いにかこつけて強欲大家をとつちめるお話と、一組の若者の恋もようもかためて、裏長屋の井戸端のおかみさんたちの会話も楽しく、江戸庶民の日常と非日常が笑いの中に浮かび上がります。

